

2023年9月29日  
イオンアグリ創造株式会社

## イオン埼玉久喜農場で 廃棄トマトを再エネ利用し、CO<sub>2</sub>排出量低減に貢献

イオン直営農場の運営および農産物の生産委託に取り組むイオンアグリ創造株式会社（本社：千葉県千葉市、社長：福永 庸明 以下、「イオンアグリ創造」）は、2023年8月8日から、同社が運営するイオン埼玉久喜農場でやむを得ず廃棄するトマトを、オリックス資源循環株式会社（本社：東京都港区、社長：有元 健太郎 以下、「オリックス資源循環」）が運営する「寄居バイオガスプラント」※1にて再資源化する取り組みを開始しました。

お客さまに安定して良質なトマトをお届けするために、イオン埼玉久喜農場では1年を通じてトマトを栽培しており、イオングループの各店舗にて販売しています。

大きすぎたり、小さすぎたりなどで販売規格に合わないものや、収穫前に落ちてしまったりしたものなどは、ストレートジュースなどの加工品として販売をしたり、地域の子ども食堂や動物園に寄付するなど、フードロスの削減に努めています。しかしながら、トマトの表面が割れてしまったり、カビが生えたりしたトマトは、これまでやむなく廃棄していました。

水分が多いトマトは、飼料化施設および堆肥化施設において取り扱いが難しいため、廃棄トマトはオリックス資源循環に焼却処理を依頼していました。

このたび、オリックス資源循環の「寄居バイオガスプラント」で採用する乾式メタン発酵技術を活用することで、焼却が難しい水分含有率の多い有機物や、従来の湿式メタン発酵では処理が難しかった植物の繊維からも、高効率にバイオガスを取り出して発電できることに着目し、廃棄トマトの処分方法を切り替えることにいたしました。本取り組みにより、従来の焼却処理に比べて、CO<sub>2</sub>の排出量削減に寄与することができます。

イオンアグリ創造は、今後も自然資源の持続可能性と事業活動の継続的発展の両立を目指し、自然・生態系・社会と調和のとれた農業を実現するために、生産段階でのフードロス削減およびCO<sub>2</sub>排出量低減に積極的に取り組んでまいります。

※1 「寄居バイオガスプラント」は廃棄物に含まれるバイオマス（生ごみ・紙ごみ・草木類など）を、微生物（メタン菌など）の力によって分解し再生可能エネルギーであるバイオガスを発生させ、そのガスを利用して発電する施設です。

<参考URL : <https://www.orix.co.jp/resource/service/biomass.html>>

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

イオンアグリ創造（株）創造室 電話：043-212-6462